

平成30年度日本小児外科学会
第2回定例理事会議事録

日 時：平成 30 年 6 月 29 日（金） 11：00～16：30

会 場：大阪大学東京オフィス

出席者：越永従道（理事長）、田尻達郎（副理事長）、八木 實（理事・会長）、山高篤行（理事・副会長）、奥山宏臣、廣部誠一、臼井規朗、金森 豊、野田卓男（以上理事）、猪股裕紀洋、仁尾正記（以上監事）、黒田達夫（前理事長）、窪田正幸（前会長）、藤野明浩（庶務委員長）、菱木知郎（庶務副委員長）、橋詰直樹（庶務委員補佐）、浦尾正彦（財務会計補佐）、松藤 凡（第 34 回秋季シンポジウム会長）、米倉竹夫（第 35 回秋季シンポジウム会長・利益相反委員会委員長）、米田光宏（施設認定委員会委員長）、小野 滋（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門医制度庶務委員会委員長）、仁田尾慶太（事務局）
欠席者：渡井 有（財務会計委員長）、上原秀一郎（財務会計副委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第2回定例理事会の議事録署名人は、田尻達郎副理事長、奥山宏臣理事とした。
2. 平成29年度第8回、平成30年度第1回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 審議事項

- 1) 第 56 回学術集会について（八木会長、橋詰庶務委員補佐）

八木会長および橋詰庶務委員補佐より資料に基づき、プログラム等について報告・提案され、承認された。海外名誉会員表彰・講演の旅費は学会本部から支出することが確認された。

日時：平成 31 年 5 月 23 日（木）、24 日（金）、25 日（土）

会場：久留米シティプラザ

テーマ：継往開来～小児外科学の継承と発展～

- 2) 第 57 回学術集会について（山高副会長）

山高副会長より資料に基づき、日程や会場、テーマ等が提案され、承認された。

日時：平成 32 年 5 月 21 日（木）、22 日（金）、23 日（土）

会場：都市センターホテル

テーマ：子どもが最初、いつだって

- 3) 第 34 回秋季シンポジウムについて（松藤秋季シンポジウム会長）

松藤秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況が報告され、了承された。

日時：平成 30 年 10 月 27 日（土）

会場：聖路加国際大学

テーマ：総排泄腔異常

4) 第 35 回秋季シンポジウムについて（米倉次期秋季シンポジウム会長）

米倉次期秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況が報告され、了承された。日本小児集中治療研究会では土曜日の夕方から2時間ポスターセッションの枠を取っているため、演題募集の際に秋季シンポジウムの演題から漏れた際のチェック項目を設けることとする。

日時：平成 31 年 10 月 19 日（土）

会場：大阪国際交流センター

テーマ：小児集中治療

5) 庶務委員会審議事項（藤野委員長）

藤野委員長より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

6) 財務会計委員会審議事項（浦尾補佐）

浦尾財務会計補佐より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

7) 各種委員会審議事項

(1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案がされた。

・海外からのアクセス数増加に伴い、外国人に対する対応が検討され、学会雑誌を PDF ではなく、全文 HTML でも公開し、更には図表ならびに図表のタイトルや説明などを英語表記にするよう規定を改定してはどうかと提案がされ、費用は初期費用 150,000 円、追加費用として 1 頁あたり 5 円割高となると報告があり、すぐにはインパクトには結びつかないとのことで、今回は見送ることとした。

(2) 国際・広報委員会（越永担当理事）

越永担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

・平成 28 年 6 月の医療法改正により、高難度医療技術を実施する際に、病院として審査、安全性の確認するプロセスがあることが特定機能病院の承認要件として義務付けられた。日本外科学会では「外保連試案」に掲載されている手術難易度分類 A-E のうち、E 難度手術は全て高難度医療技術に該当し、D 難度手術は原則として相当しないと考えられるが、担当学会で最終判断してリストアップする方針となった。

前回、平成 28 年 11 月に理事会で審議し、E 難度手術は小腸移植、先天性気管狭窄手術の 2 つで、D 難度手術で該当するのは腹腔鏡下胆道閉鎖症手術とした。

今回、リストの見直し依頼があり、保険診療委員会、学術先進医療検討委員会、倫理安全管理委員会で意見を確認した。平成30年度の保険改訂で腹腔鏡下胆道閉鎖症手術、小腸移植が保険収載されたが共に施設基準があり大きな変化はないので、今回もリストとしては以下の案でよいのではと提案があり、承認された。

【高難度新規医療技術に該当する術式リスト】

E 難度手術：小腸移植、先天性気管狭窄手術

D 難度手術：腹腔鏡下胆道閉鎖症手術、移植用小腸採取術

(4) 教育委員会（山高担当理事）

山高担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(5) 悪性腫瘍委員会（田尻担当理事）

田尻担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(6) 学術・先進医療検討委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされ、承認された。

・東北大学の和田基先生より、今年の PAPS に応募して採択されたが、JPS に投稿した論文は reject された発表について、第 10 回国際小児腸管不全シンポジウムにも演題応募したいとの要望があった（国際小児腸管不全シンポジウムの投稿規定では、他の国際学会で既発表の演題でも、論文として掲載されていなければ応募してよい）。和田先生は、上記論文が JPS に reject されたため、書き改め PSI に投稿したいと希望しているということが伝えられ、オプトアウトの手続きを含め、データベース委員会に確認を取ることとした。

(7) 倫理・安全管理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(8) データベース委員会（山高担当理事）

山高担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされ、承認された。

・NCD データ利用の公募について 5 件の応募があり、以下 2 件の申請が承認された。
「本邦における新生児期発症の腸管不全に関する疫学的研究」和田 基会員
「術後成績からみる小児の嚢胞性肺疾患に対する手術至適時期、並びに手術リスクの検討-National Clinical Database による調査研究」藤雄木 亨真会員
・日本外科学会 NCD 臨床研究推進委員会より連絡があった、「NCD データを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の公募」の日本小児外科学会における取り扱いについて、研究費用については学会では負担が出来ない事を明記の上、ホームページに掲載して募集を行うこととした。

(9) 小児救急検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされ、承認された。

・日本小児外科学会ホームページ上の小児救急の受け入れ状況のページの更新(前回更新から2年目)：認定施設に対する調査と集計

「外科的疾患をもった小児」、「外科的疾患をもった新生児」、「小児の外傷」、「小児の熱傷」、「陰嚢の異常」、「異物誤飲」について小児救急受け入れ状況調査票を作成し、事務局からメールで発送し、回収を行う。

・災害対策マニュアルの改訂や訓練

実際の初動訓練でマニュアルの検証と改訂を進めていく。まずは対策本部立ち上げまでを訓練する。状況設定を作成し、訓練の日程を決定する。

(10) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(11) トランジション検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされた。

・トランジションに関して施設及び評議員に対する実態調査(案)を作成したと報告があり、アンケート調査の前に学術アンケート調査申請書に記入した上で、学術・先進医療検討委員会と理事会で承認後に開始することとした。

(12) 規約委員会（金森担当理事）

金森担当理事より資料に基づき、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

・理事会内規の振り分け作業について、規約委員の中に理事会メンバー以外がいるが、振り分けする作業には理事会内規を確認する必要があるため、理事会メンバー外の規約委員にも閲覧することが許可された。

・再編をしている委員会規則について、「この規則は、本会規約委員会との協議及び委員会の決議を経、かつ、理事会の承認を受けて変更することができる。」の箇所は規約委員会の協議については全ての委員会規則に記載があったが、除くこととした。また、臨時評議員会の前に委員会規則を評議員宛に事前配信して確認してもらうこととした。2019年4月1日から新しい委員会規則を公表予定である。

(13) 研究倫理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(14) NCD連絡委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より資料に基づき、以下の点について提案がされ、一部承認された。

・NCD連絡委員会の主たる活動である「NCD-P登録情報の検証(Audit)」と、「小児外科手術に対する医療品質評価への取り組み」について、学会員にご理解いただける

ように、小児外科学会のホームページ、NCD 連絡委員会の項目に掲載を行う。

・Audit に伴う予算

NCD 入力データの質と悉皆性を担保するために、今年度より Audit を行うことを予定している。1 年間に 4 施設に対して、NCD 連絡委員 1 名と外部委託調査員 1 名の計 2 名のペアで 1 日間の Site visit を行う計画である。外部委託調査員には日当+交通費、NCD 連絡委員には交通費の支給が必要となる。見積もり合計は 320,000 円である。また、セルフチェックについても検討することとした。

・NCD 連絡委員会補佐募集の提案 (NCD 連絡委員会・データベース委員会共同提案)

NCD 連絡委員会の業務の一貫として行っているアニュアルレポートの解析や医療品質評価 (リスクモデルの作成・リスクカリキュレータの開発) については、現在、NCD 連絡委員会補佐 (以下、補佐) が無償で行っている。また、今後データベース委員会が行っている公募研究についても、小児外科 NCD データの構造や特性に習熟した補佐の助力が必要になることが予想される。

NCD に関わる他領域学会では、これら解析作業や公募研究のデータ解析については、原則的に NCD に経費を負担することで NCD 固有の SE に作業を依頼しているため、補佐という立場を設け、NCD 事務局に「経費」ではなく「労力」を提供している学会は、小児外科を除いて例がないのが現状である。

今後も小児外科学会にとって、NCD に対して他領域学会のように解析に関わる「経費」を負担する余力がなく、「労力」という形の提供によって NCD に関する解析を進めるのであれば、補佐の就任に関して、小児外科学会として公平性や透明性を保つとともに、補佐の業務に伴う交通費や経費 (現在は、補佐が統計解析ソフトの SPSS を自己負担して購入している) を小児外科学会として負担する必要がある。また、今後一定の人数を継続的に維持していくために、人材を確保して、補佐によって解析のノウハウを継承していく必要がある。

●NCD 連絡委員会・データベース委員会としては、

(1) 補佐の人材確保については、学会ホームページ等で希望者を呼びかけることによって、公平性・透明性をもって募集する。

(2) 補佐が必要とする交通費や解析ソフトの経費 (学会として保有予定) については、学会で負担する (但し、交通費については、支給に一人あたりの年間上限額を設ける)。

(3) 補佐の解析作業は、委員会活動の一環としておこなうため無給とする。

(4) 解析活動の結果、副産物として応募研究に有用な解析技術や小児外科 NCD データに関する知識が得られること、医療品質評価のための研究活動に参加できることについては容認する。

と提案された。

●NCD 連絡委員会補佐選任方法 (案)

1) 学会ホームページを通じて希望者を募集する。

2) 応募資格は日本小児外科学会会員であることとする。

3) 補佐の人数 : 応募者から 6~8 名程度選任する。

- 4) 現在の補佐についても、応募があれば再選任を妨げない。
- 5) 最大人数を超える応募があった場合は、NCD 委員会およびデータベース委員会で協議のうえ、選任する。

●補佐の募集によって生じる問題点

1) 仮に募集を行うことになれば、他領域学会では一般的に認められていない NCD 事務局に労力を提供する形の小児外科独自の解析作業が公になってしまう。そのような補佐を公に募集してもよいかどうか、NCD の岩中代表理事からの承諾を得る必要がある。

2) NCD データは NCD 事務局（東京：御茶ノ水）から外部に持ち出せないため、NCD 事務局内での作業に限定される。NCD データを扱える人員が制限されているため、現在は NCD の平原憲道氏の解析を補助するという形で作業を行っている（平原氏が同席していないと解析が許可されていない）。NCD 事務局内での解析作業は、地理的・時間的な制約を伴うため、遠方の学会員の参加や協力は、実質的に困難である（公平性に欠ける）。

3) NCD データを解析するソフトは SPSS に統一されている。そのため学会から募集する補佐に対しては、学会として SPSS を提供する必要が生じる。SPSS の購入には約 63 万円の購入費が必要となる（1 ライセンスで 2 つの PC にインストール可能だが、使用者は 1 名に限定）。現在 SPSS にどのようなライセンス契約があるか照会中であるが、学会との契約では割高になる可能性がある。

●NCD 連絡委員会委員や、データベース委員会委員についても、現行の制度の下では公募はできないにしても、意欲のある評議員に就任希望表明していただくことはできないか、という意見が出ている。

本件については、総合調整委員会で審議の上、再度理事会で審議することとした。

(15) ガイドライン委員会（金森担当理事）

金森担当理事より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

(16) 利益相反委員会（米倉委員長）

米倉委員長より資料に基づき、以下の点について報告・提案がされ、承認された。

・学会が保有するデータ利用についての利益相反自己申告書の様式が無かったため、新たに学会保有情報を利用した臨床研究申請に係る利益相反自己申告書を作成したと報告があり、微修正した上でメール審議にて再度確認することとした。

8) 選挙管理委員会審議事項（藤野委員長）

藤野委員長より資料に基づき、評議員選挙の日程について、選挙システムが使用できる年内までに投票が終われるようなスケジュールと、選挙に関わる定款施行細則の改定案が提示され、承認された。定款施行細則については秋に行われる臨時評議員会、臨時総会で承認を得ることとし、当選の通知に関しては、開票後に当選した方にメールにて

配信し、選挙結果の公示については年度が替わった段階で行うこととした。また、通常8月に選挙の公示を行っていたが、今回はお知らせという形にとどめ、秋に行われる臨時評議員会、臨時総会で承認を得た後、選挙の公示を行うこととした。選挙のスケジュールが例年と異なるため、臨時評議員会、臨時総会の通知文に HP を見ていただく様周知することとした。

9) 一般社団法人化に対するパブリックコメントについて（越永理事長）

越永理事長より資料に基づき、一般社団法人化に対するパブリックコメント募集期間が終了し、質問に対する回答案が提示された。次回臨時理事会で最終確認の上、ホームページ上で回答を公開することとした。

4. 報告事項

1) 新庶務委員補佐（会長付）就任挨拶（橋詰庶務委員補佐）

新庶務委員補佐（会長付）として橋詰直樹会員が承認され、橋詰新庶務委員補佐より挨拶が述べられた。

2) 第55回学術集会開催報告（窪田前会長）

窪田前会長より、収支決算報告については現在取りまとめているところであるが、学術集会参加者数合計は1,111名（海外20名、医師926名、企業67名、初期研修医・メディカルスタッフ42名、学生25名、スタッフ12名、その他19名）であったことが報告され、了承された。

3) 専門医制度委員会報告（米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長）

米田施設認定委員会委員長、小野専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・新専門医制度に向けて、認定施設に対して7月末までに施設アンケートを実施しており、8月の総合調整委員会でアンケートの集計結果を報告予定。
- ・新小児外科専門研修について会員に対してパブリックコメントを6月20日で締め切り、回答案を作成した。すぐに回答できないものも含まれていた為、施設認定委員会、専門医認定委員会で検討を行い、秋の臨時評議員会、臨時総会に向けて準備を進める。
- ・専門医の認定基準について、他学会の動向を調査し、論文を必須とするサブスペシャリティ学会が多かったと報告があり、再度論文を必須とするかについて専門医認定委員会を中心に検討を行い、8月の総合調整委員会に報告をすることとなった。なお、日本小児外科学会雑誌の投稿数が減る事も懸念されるため、投稿数の減少対策についてもあわせて検討するよう依頼がされた。
- ・みなし指導医は2019年度から廃止する予定のため、秋の臨時評議員会、臨時総会で規則の改定案を諮る予定である。

・カリキュラム整備基準については、上記項目を整理した上、単位等見直して再度理事会に提案することとした。

4) 理事長報告（越永理事長）

(1) 日本小児期外科系関連学会協議会からの寄贈本「2016年4月熊本地震報告書」を受領した。

(2) 日本がん治療認定医機構からの寄贈本「10年史」謹呈によせて」を受領した。

(3) 日本皮膚科学会からの通信文「理事長交代のお知らせ」を受領した。

(4) 日本医学会連合からの通信文「平成30年度定時総会資料」を受領した。

(5) 日本医学会からの通信文「JST国際部からのお知らせについて」を受領した。

(6) 日本医学会からの通信文「平成30年度版 死亡診断書記入マニュアルについて」を受領した。

5) 庶務委員会報告（藤野委員長）

藤野委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2018年5月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,776名（うち海外2名）、評議員314名、名誉会員55名（うち海外7名）、特別会員69名（うち海外1名）の合計2,214名である。

6) 財務会計委員会報告（浦尾補佐）

浦尾補佐より、今回特に審議事項がない旨述べられた。

7) 各種委員会報告

(1) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・「委員会報告の内容を論文投稿する場合は、二重投稿に当たらない」か否かについて、二重投稿になるか否かは掲載先の雑誌編集者が判断するため、医中誌WEBで検索できることなどから、「解説論文」として扱われ、二重投稿とみなされる可能性があることが理事会で指摘され、このため、前回委員会の議事録の該当部分を、以下のように訂正することになった。「委員会報告の内容を論文投稿する場合、投稿先の判断で原著論文として扱われ、二重投稿とされる可能性があるので注意が必要である」また、委員会報告が投稿されてきた際には、「この内容を原著論文として他の雑誌に投稿すると、二重投稿とみなされる可能性がある」と、注意喚起することになった。
- ・学会員以外でも投稿できるように、6月1日付で、投稿規定を以下のように改定する。「筆頭著者は原則として本学会会員に限り、但し会員の推薦があれば本学会会員でなくても受け付けます。」また、これに併せて投稿時のチェックリストも改定することとした。
- ・直近の投稿論文の採択状況は、新規投稿29編(18008-18036)、採択28編、不採択0編、取り下げ2編、問題になった事案として、

- 1.倫理委員会の審査なし 2 編→編集長より著者に確認
- 2.査読者の 1 名が掲載不可 2 編→3 人目の査読者として機関誌委員を指名
- 3.著者より投稿の取り下げ依頼 1 編

・ 転載許可申請が 2 件いずれもずれも問題無く、許可した。

池田 均 先生(獨協医科大学埼玉医療センター小児外科)

【転載元】長谷川真理子,山口岳史,鈴木 完,他:神経芽腫 stage 4S の治療:特に無症状の胎児期発見例について.日小外会誌,53(1): 49-55, 2017.

【転載先】獨協医科大学埼玉医療センター小児外科発行の年報・業績集「獨協医科大学埼玉医療センター小児外科のあゆみ 2017」

入江理絵 先生(昭和大学医学部外科学講座小児外科学部門)

【転載元】入江理絵,土岐 彰,千葉正博,他:特殊な長鼻様臍ヘルニアに対して新しい臍形成術を施行した 1 例.53 (4): 954-957, 2017.の図 1

【転載先】入江理絵,土岐 彰:臍ヘルニアの診断と治療.小児外科,50(8), 2018(予定).

・福岡で開催された日本小児科学会学術集会で、食育についてのシンポジウムが開催され、本シンポジウムの内容を会員へ周知・啓発することが決まった。四者協の他の団体(日本小児保健協会、日本小児科医会、日本小児期外科系関連学会協議会)の会員にも周知するために、各々の機関誌にも掲載を目指すこととなり、日本小児外科学会雑誌に掲載できるかどうか審議した結果、研究会の抄録掲載などに準じて、有料で掲載することを提案することとした。

・PSI Publication Committee より、ラオスから投稿された以下の論文が、PSI への掲載は難しいが、ラオスの新生児外科診療の現状を知る上で貴重な内容であるため、日本小児外科学会雑誌に掲載できないか検討してほしい、という依頼があった。「Vongphet Soulitheone et al: The current of neonatal surgery outcome: A 2 years review of admitted cases at Laos National Children' s Hospital.」検討の結果、編集者への手紙として、ラオスの現状に詳しい先生に解説を書いていただき、それに引き続いて掲載することになった。日本小児外科学会雑誌に掲載の件については学会中に本人 Vongphet Soulitheone に了解を得た。

(2) 国際・広報委員会 (越永担当理事)

越永担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(3) 保険診療委員会 (廣部担当理事)

廣部担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・平成 32 年度診療報酬改定の要望項目候補リスト

現在のところ要望項目の候補は下記の通りである。今後、委員会を 8-9 月に開催し、最終的に技術新設(5 項目まで)と技術改正(8 項目まで)を選定し、11 月 30 日までに外保連へ提出する予定である。

(技術新設)

- 1 胸骨挙上用固定具(ペクタスパー)抜去術:再要望
- 2 食道瘻造設術:再要望

3 プロビアクカテーテル留置術

※「K618 中心静脈注射用植込型カテーテル設置」で査定される地域が増加している

4 脾固定術

5 腹腔鏡下脾固定術

6 先天性食道閉鎖症食道バンディング術※噴門形成術 16980 点

7 卵巣嚢腫開窓術(捻転解除を含む)※経皮的卵巣嚢腫内容排除術 1490 点

※卵巣部分切除開腹 6150 点、腹腔鏡 18810 点新生児加算はなし

8 スペース挿入手術:術後放射線治療に備えて消化管を挙上する

(技術改正)

1 組織試験採取、切採法直腸の増点:再要望

2 陰嚢水腫手術(鼠径部アプローチ)の増点:再要望

3 小児における末梢留置型中心静脈注射用カテーテル(PICC)挿入 700 点の増点

2)6月19日、平成30年度第1回外科学会保険診療委員会が開催され、臓器別専門小委員会(小児)の要望項目を外科学会に11月16日(金)までに提出し、11月下旬に各領域からの意見をとりまとめ、外科学会からの要望項目(新設5項目、改正8項目、材料3項目)を外保連に提出することが確認された。

(4) 教育委員会 (山高担当理事)

山高担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

・日本小児外科学会卒後教育セミナー

第34回日本小児外科学会卒後教育セミナー：第55回学術集会に合わせて、平成30年6月1日(金)、2日(土)、朱鷺メッセ2階中会議室「201」で開催した。卒後教育セミナーの事前申し込みは82名、当日申し込み33名、キャンセル1名、総受講者数は114名で、2年ぶりに100名を超えた。アンケートでは、具体的な症例の提示、手術のビデオなど、より実践的な講義が良いとの要望も多く見受けられた。受講費については、20%の受講者が値下げを希望し、内視鏡セミナーとは別個に行ってほしい、という意見もあった。

・日本小児外科学会内視鏡手術セミナー

平成30年度(第9回)内視鏡手術セミナーを第55回学術集会に合わせて、平成30年6月1日(金)、朱鷺メッセ4階国際会議場にて開催した。

・来年度の卒後教育セミナー・内視鏡手術セミナーの予定

第56回学術集会に合わせて、平成31年5月25日(金)、26日(土)(会場未定)に開催を計画している。

・教育セミナーの今後の方針について

1)新専門医制度の導入にあたり、小児外科学会でも専門医、指導医の申請要項の変更が予定されている。現行、卒後教育セミナーは、専門医取得に必須ではなくクレジットも付与されないが、今後、この件に関して検討していく。

2)秋季セミナーについて：消化器外科学会など同様に、専門医更新のためのセミナーを設定すべきではないか、その際、通常の教育セミナーとは別に、秋季シンポジウムに合わせて行うのがよいのか、などに関して、今後検討していく。

(5) 悪性腫瘍委員会 (田尻担当理事)

田尻担当理事より、以下の点について報告がされた。

- ・新学会登録システムについて、日本小児外科学会雑誌 8 月号に載せるために最終原稿を作成中である。

(6) 学術・先進医療検討委員会 (臼井担当理事)

臼井担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(7) 倫理・安全管理委員会 (野田担当理事)

野田担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(8) データベース委員会 (山高担当理事)

山高担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(9) 小児救急検討委員会 (奥山担当理事)

奥山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・大阪北部地震が 6 月 18 日午前 7 時 58 分頃発生し、震源地は大阪北部、最大深度 6 弱、マグニチュード当初 5.9(のちに修正 6.1)、今回は災害対策本部の設置基準(震度 6 強)を満たしていないことや大規模な被害発生がないことから災害対策本部設置には至らなかった。ただし、四者協小児・周産期災害医療対策委員会から四者協災害対策委員会委員(小児外科代表米倉・島)へ情報が伝達された。また、日本小児外科学会災害対策メーリングリストによって、その情報の共有(計 5 回)が行われ、同メーリングリストによって災害地域の認定施設から自施設や周辺施設の状況について情報提供(計 4 回)および共有がなされた。災害対策本部設置には至らなかったが、災害対策マニュアルに掲げていた災害対策メーリングリストによる災害対策本部構成員への情報の伝達および共有や災害地域の認定施設からの情報の提供および共有ができた。

- ・ PALS 講習会

9 月 16、17 日、日本 ACLS 協会東京トレーニングラボを予定し、第 55 回日本小児外科学会で資料を配布した。さらに学会誌に会告を掲載し、学会 HP から申し込みできるようになった。PALS 講習に必要な BLS 講習も 9 月 15 日に同じ場所で予定している。

- ・ 第 7 回小児救急セミナー

平成 30 年 5 月 30 日(水)17:30~18:30 第 55 回学術集会期間初日に開催し、出席者 182 名(実際には出入りがあり、200 名近くと推測される)、小児外科医にとって非常に興味あるテーマであり、盛会であった。

- ・ 日本小児外科学会ホームページ上の小児救急の受け入れ状況のページの更新

「外科的疾患をもった小児」、「外科的疾患をもった新生児」、「小児の外傷」、「小児の熱傷」、「陰嚢の異常」、「異物誤飲」について小児救急受け入れ状況として 2 年ごとに更新する。追加項目なし。

- ・ 災害対策マニュアルの作成

災害対策マニュアルについて前々回理事会で承認された。災害発生時の初動やその後の連絡のために、対策本部のメーリングリスト作成済み。

(10) ワークライフバランス検討委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

・第55回学術集会で開催された特別企画「徹底討論！小児外科医の理想的な働き方」について、本委員会で設定した以下の設問に対して、論者の先生方に前もって現状と理想を回答していただき、当日は本委員会がまとめたものを提示しながらコメントをいただいた。またそれぞれの設問に対してフロアからはアンサーパッドで回答していただき、アンケートの形にしたものを記載してもらった。

設問1, 夜間休日体制

設問2, 外科医のインセンティブ

設問3, 拠点病院とサテライト病院

設問4, 学生対策

設問5, 成人外科症例の経験

設問6, フルタイム勤務ではない働き方

アンケートは100名（男性70名、女性30名）から回答を得た。アンケートを男女別、勤務病院種別、年代別などに分けて回答を解析し、本委員会の次の活動（来年度の学術集会企画等）へ向けての課題を検討する予定である。また、解析結果をホームページ上に公表する。

(11) トランジション検討委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(12) 規約委員会（金森担当理事）

金森担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(13) 研究倫理委員会（野田担当理事）

野田担当理事より、今回特に報告事項がない旨述べられた。

(14) NCD連絡委員会（臼井担当理事）

臼井担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

・第55回日本小児外科学会学術集会において、データベース委員会と共催で第7回NCD-小児外科領域会議を開催し、約100名の参加者を得た。今後、当日発表したパワーポイント資料を学会ホームページで公開予定である。

(15) ガイドライン委員会（金森担当理事）

金森担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

・新しいガイドラインのピックアップ作業が終了し、近日中にホームページに公開予定

である。

(16) 利益相反委員会（米倉委員長）

米倉担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・過去2年の事務局へ提出されたCOIあり書類（4名分）について確認した。

8) その他

- ・理事会の途中から定足数が満たない時間帯があったため、理事の定足数が満たす時間帯に審議事項を行うことが確認された。

9) 次回臨時理事会日程の確認（越永理事長）

次回理事会は平成30年8月23日（木）16：00～17：00 大阪大学東京オフィスと京都府立医科大学小児外科教授室にて開催することが確認された。

理事長 _____

副理事長 _____

理事 _____